

## — 障害内容の異なる2人の被支援者へのサポートについて —

### 株式会社 オンワードコーポレートデザイン



事業概要：制服、雑貨等の製造と販売  
従業員数：282名（令和7年3月現在）  
サポーター：松岡さん、栗林さん、原さん（職場同僚）  
被支援者：Aさん（視覚障害）、Bさん（身体障害）  
勤続年数：20年9か月、17年10か月（令和7年3月現在）  
業務内容：Aさんヘルスキーパー、Bさん技術職

支援内容	取組み	➡ Aさん…相談しやすい環境 Bさん…就業環境の整備
	効果	➡ Aさん…社内での移動の安全性確保 Bさん…勤務シフト増で勤務の安定

### Aさん、Bさんそれぞれの悩みの 相談窓口の設置

株式会社オンワードコーポレートデザインは、生活文化創造企業である株式会社オンワードホールディングス100%出資の会社で、ユニフォームやセールスプロモーション、空間づくりなどを行っており、障害のあるAさんとBさんが働いています。

Aさんは視覚障害、Bさんは透析を必要とする身体障害があります。今まで特別な配慮は行っていませんでしたが、活躍してくれていました。最近になり、各々に悩みを抱えている様子を感じられ、会社として更に長期にわたり安定して働いてもらうため、サポートが必要だと感じていました。そこで、以前から存在を知っていた東京しごと財団の「職場内障害者サポーター事業」に申し込むことにしましたが、2人の被支援者に対して1人では支援が難しいと判断し、同僚社員3人で申し込むことにしました。



### Aさんの業務上に発生する 手隙時間のための業務切り出し

まず2人の悩みを確認するためにサポーター支援員に相談をしたところ、被支援者各々とコミュニケーションを深

める必要があるため、定期的に面談をする必要があると助言をもらいました。早速、Aさんに面談を行うことを伝えて4人での面談を実施しました。

初めこそ硬い表情でしたが、回数を重ねるごとに悩みや希望について教えてくれるようになりました。その面談で判明した悩みは、下記の4点でした。

- ①現在のエレベーターには点字表示や音声案内がないため、毎日階段で社内を移動している。
- ②飲料自販機に点字表示がなく商品が選べないため、都度コンビニまで出かけている。
- ③社員通用口のスロープが無くなり、入口が分かり難い。
- ④マッサージ業務は手隙時間が発生しやすく、「することがない」というストレスを感じている。

### Aさんが安心して仕事に取り組める 職場環境の整備

サポーターの3人はAさんとの面談後、早速相談をして、下記4点を提案しました。

- ①エレベーターへの点字表記を行い、会社に音声案内のエレベーターへの変更依頼をする。
- ②大容量のペットボトルを購入し、Aさん専用の飲み物置き場を決めて、飲み物を探さなくてもよいようにする。
- ③社員通用口にスロープの再設置をする。
- ④手隙時間対策として社員向け研修動画のナレーションに挑戦する。

Aさんは3人のサポーターが、エレベーターの点字表示（後日音声案内導入）、飲み物の購入、スロープの設置を迅速に対応してくれたことに感謝して、サポーターか

